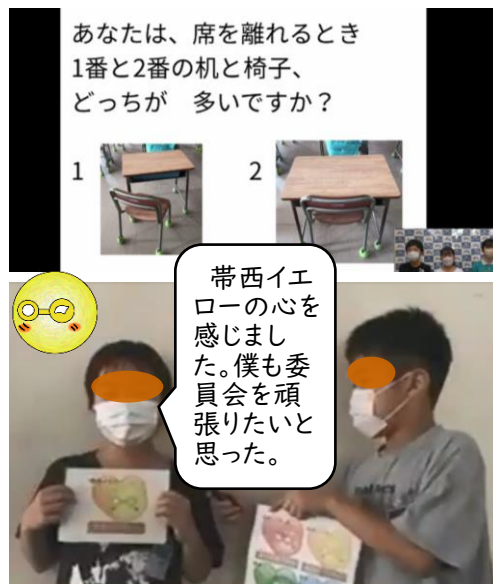




いきいき集会 ～環境美化委員会～

今日15日(木)のいきいき集会は環境美化委員が発表しました。環境美化委員の火曜日の朝の日常的な仕事は、トイレのスリッパ並べと、雑巾チェックだそうです。また、教室にあるボックスの整理整頓の仕方や、離席するときの椅子の直し方もクイズで出してくれ、聴いていた子供たちも自分事として考えることができました。さらに、トイレのスリッパをそろえる意義と、「はきものをそろえる」という詩を紹介してくれて、全校でその詩の音読をしました。

感想交流では、5年生の子供が「帯西イエローの心を感じました。それは、環境美化委員さんの発表を聞いて、僕も委員会を頑張りたいと思ったからです。」と感想を述べると、環境美化委員長が「皆さんがトイレのスリッパや雑巾を並べることで、皆さんの心もきれいになるので、これからも続けましょう。」と呼び掛けていました。この集会を通して、子供たちの意識が高まったと思います。発表からは、帯西イエローの「役割を自覚し、よりよい学級や学校をつくる」心が育っていると感じました。



はきものをそろえる

右の詩は、今朝の集会の中で、環境美化委員が紹介してくれた「はきものをそろえる」という詩です。私が、初任のときから目にして、子供たちと一緒にスリッパ並べに取り組んだことを思い出します。さて、この詩の作者藤本 幸邦(ふじもと こうほう 1910～2009年)さんは、曹洞宗のお坊さんで、戦後親とはぐれ孤児となった子や戦災で親を失った子供たちを引き取って、寺で育てていました。こうした中で、藤本さんは禅宗の「脚下照顧(きゃっかしょうこ)」の教えを、子供たちにわかりやすく伝えるために、この詩を作られました。

脚下照顧:もと禅家の語で、「他に向かって悟りを追求せず、まず自分の本性をよく見つめよ」という戒めの語。転じて、「他に向かって理屈を言う前に、まず自分の足元を見て自分のことをよく反省すべきこと。また、足元に気をつけよ」の意で、身近なことに気をつけるべきことをいうこと。(三省堂「新明解四字熟語辞典」より)

「はきものをそろえる」という詩が作られた背景を知った上で、身の回りの乱れた履物を揃えると、さらに気分がスッキリすると思います。

